

## 佐賀大学ビームラインの現状

郭其新、高橋和敏、東純平、斎藤勝彦、今村真幸、山本勇

佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター

SAGA-LS BL13 に設置している佐賀大学ナノスケール表面ダイナミクス研究ビームラインは、アンジュレータ光を利用する VLS ステーションと偏向部からのシンクロトロン光を利用する PGM ステーションから構成されており、現在、約 34~850eV と 2~150eV のエネルギー範囲のシンクロトロン光やレーザーを用いた光電子分光法、吸収、蛍光測定などを主な手法として、各種機能性物質の表面界面の電子状態分析を行うとともに、光誘起現象の解明や光機能材料の計測分析に利用している。2 つの実験ステーションに設置の光電子分析装置 (MB Scientific 社製, A-1) の電子レンズ系について、広角度範囲取込型に更新する高度化などを行うことにより、光電子取り込み範囲  $\pm 15^\circ$  の広角度範囲測定モードでの角度分解光電子マッピングと、光電子取り込み範囲  $\pm 3.5^\circ$  の高角度分解能モードでの測定を切り替えながらの角度分解光電子分光実験や 2 次元のバンド分散  $E(k_x, k_y)$  測定が可能となっている。講演では、佐賀大学ビームラインの現状と代表的な研究成果を紹介する。

---

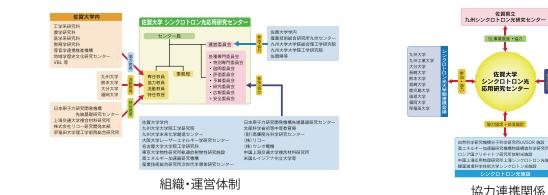
## 佐賀大学ビームラインの現状



## 組織・運営体制・協力連携関係

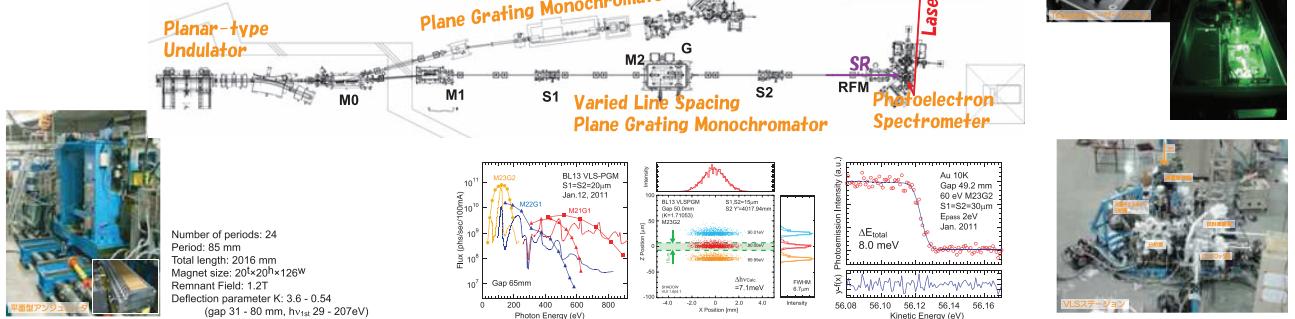
佐賀大学シシクロトロン応用研究センターは、佐賀県知事から佐賀大学長への佐賀県シシクロトロン応用施設整備事業への支援協力要請に応えて、シシクロトロンを利用する研究開発の促進、人材育成ならびに地域活性化などに学術的立場から支援協力するとともに、九州地域の大学や国内外の研究教育機関との連携によるシシクロトロン応用研究および関連する研究教育活動などを実行するに充てました。

これまでに、佐賀大学シンクロトロン光応用研究センターの整備、学術研究用ビームラインの共同開発、シンクロトロン光応用研究に関する教育の充実、その他のシンクロトロン光応用研究の促進のために、九州地域の大学を中心国内外の研究機関と協力・連携を進めてきた。

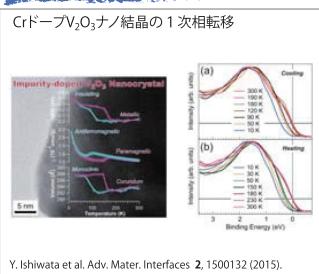


## ビームライン

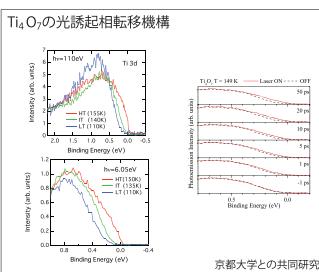
BL13ナノスケール表面界面ダイナミクスピームラインは平成14年度補正予算により建設された。本ピームラインは、アンジュレータ光を利用するVLSステーションと偏向部からのシンクロトロン光を利用するPGMマニテーションから構成されている。平成22年12月には平面型アンジュレータ装置および同制御装置などを更新した。現在、約34~850eVで2~150eVのエネルギー範囲のシンクロトロントン光とレーザーを用いた光電子分光法、吸収、蛍光測定などを主な手法として、各種機能性物質の表面界面の電子状態分析を行なうとともに、光誘起現象の解明や光機能材料の計測分析が可能となっている。



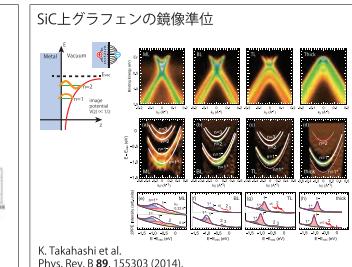
## 最近の成果から



Y. Ishiwata et al. Adv. Mater. Interfaces 2, 1500132 (2015)



## 歯科合金上L-システインの電子状態および Ag表面におけるL-システイン分子のS2p準位 レーザー誘起価数変化



K. Takahashi et al.  
Phys. Rev. B 89, 155303 (2014).

